

月報 2023年 4月30日 No.387

石城山岳会

4月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

スノーハイキングルート調査 檜原湖北岸

山スキー 駕籠山稻荷 (1,786m)

苗場山 (2,145.2m)

平標山(1,983.8m)、仙ノ倉山 (2,026.3m)

屋久島・宮之浦岳縦走

社山 (1,826m)

社山 4月登山教室

スノーハイキングルート調査 檜原湖北岸

2023年3月14日(火) 秋葉信夫

高平山 (1,096m)

檜原集落の水道バックの所から、始めが急登なのでスキーアイゼンつけて登り始める。



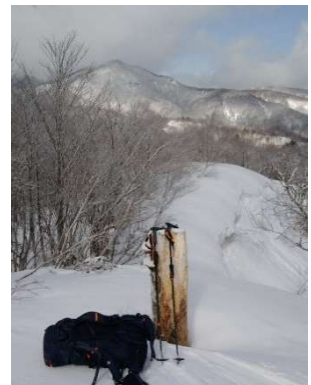
三角点は最高点より低いピークです。ブナの木々の間から、金山や高曽根山が望めます。

標高差約 250m、登り：約 1 時間。
下り：約 15 分。

高曽根山 (1,443m) 別コース

何時もは、車を止めたところの沢沿いに登り尾根に取りつくが、その北側の沢沿いに尾根まで登ってみた。車道歩き 10 分で畑地に入る。右の沢入って間違いに気づき戻り左の沢に入る。尾根に取りつき主尾根にまで上がって戻る。

今回の方が登りやすいがヶ所沢を渡る所があるので、積雪が少なくなる時期には注意。尾根まで登り：約 10 分。下り 40 分。



(文責：秋葉)



山スキー 駕籠山稲荷 (1,786m)

2023年3月20日(月): 秋葉信夫

山と高原地図「磐梯・吾妻」には駕籠山稲荷は「倒木多く多く迷いやすい、ヤブ通行不可」とある。以前から気になっていた積雪期にしか行けないルートなので、大変だったが満足のスキー山行になりました。



周りの山は雪が少なくなったがこのコースはまだ雪がたっぷりある。蒲谷地の神社の鳥居左側の作業道をシールを着けて出発。尾根に登る作業道を辿るが、植林地に出ると作業道は分からなくなってきた。

やがて、スキーのトレースが出てきたので、これに沿って進む。唐松の植林地からブナ林に変わり、地図にある登山口あたりからやや急登になる。

GPSで確認すると、このトレースは東吾妻に向かっているようだ。私が東吾妻に登る時はこの東の尾根に登るので、このトレースは駕籠山稲荷に向かうものだと思いますが、どうやらそれが間違いだったようだ。

トラバースして何とか正しいコースに戻り、沢沿いから急登を尾根に登ると駕籠山稲荷。祠は雪に埋もれて見えなかった。

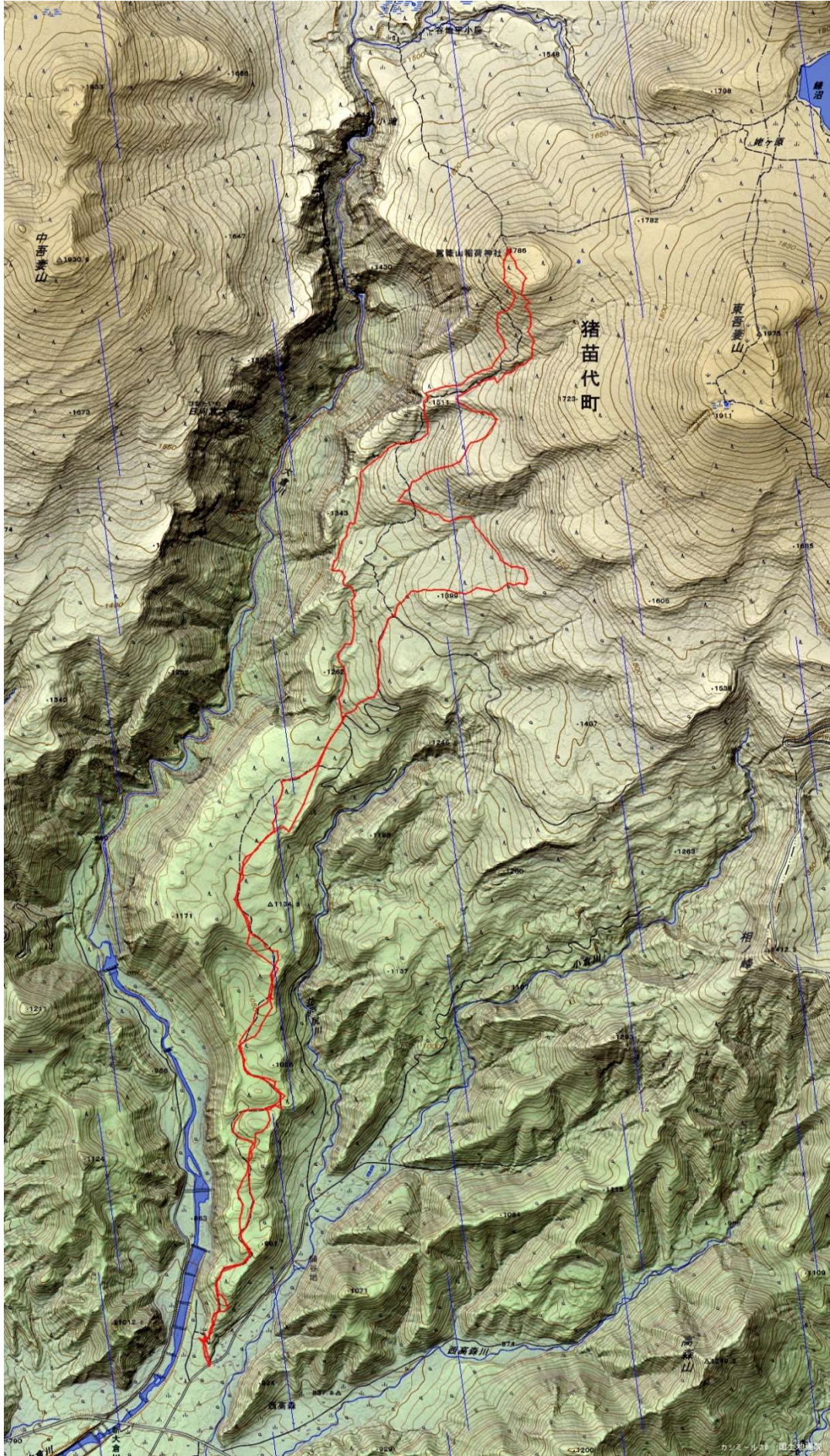


東吾妻から安達太良、一切経から東大巔の稜線、中吾妻と眼下に雪の谷地平、磐梯山と裏磐梯湖沼群、猪苗代湖を取り巻く山々、苦労した者にしか見られない絶景に胸がすく思いだ。

下りは樹林帯の斜面を気持ちよく滑る。下りすぎないようにGPSで確認しながら滑るが、やっぱり下りすぎて急斜面をスキーを持って登り返す羽目に。短い距離だがクタクタになってしまった。

地図上の登山口からは緩やかになり所々ストックで漕ぎながら滑る。朝登ったトレースは消えている所もあり慎重に下るがヶ所間違っって少し戻り正しいコースに出る。作業道を忠実に辿り、蒲谷地に戻る。標高差 1,000m、距離 18 km。

コースタイム：蒲谷地 8:00→登山口 10:10→間違い気づく 11:10→正しいルートに戻る 12:25→駕籠山稲荷 13:25~13:50→1,300m 14:40→1,332m 14:50→登山口 15:15→戻り 15:18→蒲谷地 16:20 (文責：秋葉)



苗場山 (2,145.2m)

2023年4月4日(火) 渡辺(敏)



山頂手前の急斜面



苗場山山頂の雪原

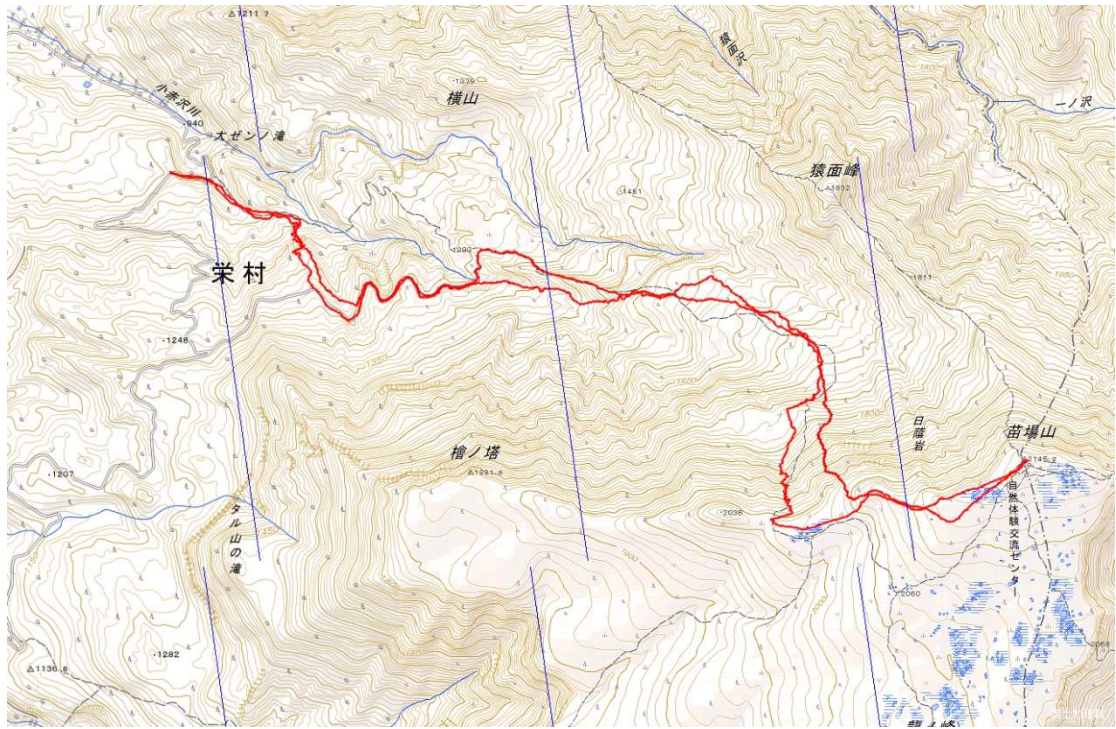
前日家を出て、途中のSAで車中泊して朝早く高速道路を出て小赤沢の苗場山登山口に向かう。越後川口ICから国道117号、405号を通り登山口まで2時間以上かかった。登山口は新潟県から長野県に入った秋山郷。こんな山奥に集落があるのかと思うほどの山奥であった。登山口近くに先行者がいて、先行者によると林道のこの先は除雪がされていないのでここから登るのがよいとのこと。先行者を見送り、道路脇に数台駐車可能なスペースがあり、駐車して登り始める。沢沿いに進むと枝沢が現れ、沢にスノーブリッジがなく渡れない。沢沿いに進む予定だが渡れないので枝沢沿いに登って行く。最初は斜面が急でスキーを担いで進む。しばらく進むと斜面が緩くなり林道に出る。林道をしばらく進むと先行者と会う。林道の終点は夏道の三合目駐車場。朝食を取り斜面を登ってゆく。先行者を追い抜いたつもりだったが、稜線沿いに進んだせいで手間取り、先行者は稜線に入らず手前の沢沿いに進んだので早かったようだ。進むと急斜面が現れ、急斜面を登るのに2時

間半かかった。スキーを担いだ方が早かったようだ。急斜面を登り終わると頂上の雪原台地。遅い昼食をとり山頂に向かう。山頂の手前に苗場山山頂ヒュッテがあり庇まで雪に覆われている。天気がよくおまけに風も弱く絶好の登山日和。山頂を後にしたのが3時。天気がよく4月になると5時過ぎでも明るいので、少々遅くなくても余裕がある。登りに7時間半かかったが、下山は1時間半ですんだ。樹間がまばらですべりやすく快適に滑り降りることができた。

コースタイム

駐車地点 6:56→小赤沢登山口 7:02→徒渉点別 7:33→林道合流 8:33→3合目駐車場 8:55→朝食 8:59 9:13→急斜面下 11:01→急斜面上 昼食 13:31 14:00→苗場山山頂 14:37 14:58→急斜面上 15:13→3合目駐車場 16:01→林道別れ 16:16→駐車地点 16:41

文責 渡辺敏夫



平標山(1,983.8m)、仙ノ倉山 (2,026.3m)

2023年4月5日(水) 渡辺(敏)



松手山から平標山方面を望む



平標山から仙ノ倉方面、後方は谷川岳

前日、苗場山を登り終えて近くの道の駅で車中泊をして、朝早く平標山の登山口に向かう。登山口の駐車場は有料とのことだが、まだ、登山時期ではなく無人であった。数台の先行車があった。平標山を目指して出発した。昨日の疲れが残っているようで、ペースが上がらずすぐ足が疲れてくるようだ。天候は昨日ほどよくなく曇りがちの空模様で、稜線に出ると風が強い。平標山山頂にはコースタイムより長く時間がかかってしまった。平標山を後に仙ノ倉山をピストンする。相変わらず風が強い。平標山山頂には雪はないが、登山道には数十センチの雪があり、所々に落とし穴があり、深い穴も時々ある。平標山を後にして平標山の家に向かう。こちらの斜面の雪が多い。山の家からは先行者の踏み跡を頼りに下山するが、先行者の踏み跡も正解とは限らない。踏み跡をたどったら間違った方向に進んでしまって、再度登り返して正規の道に戻った。しかし、踏み跡がわからなくなると、谷筋の地形が広く雪が消えているところが所々あり、藪が出ている。夏道が出ているところは夏道に沿って進むが、夏道が雪で覆われると進むルートがわからず、迷うところがた

びたび現れる。しばらく進むと林道に出た。林道を1時間近く進むと登山口に着いた。雪が柔らかく、アイゼンを使わなくてすんだ。天候もますますの楽しい登山でした。

コースタイム

平標山登山口 6:20 → 松手山 8:20 → 平標山山頂 10:11 → 仙ノ倉山山頂 11:23 → 昼食 11:32 11:53
→ 平標山 12:41 → 山の家 13:10 13:21 → 林道 14:25 → 登山口 15:22



文責 渡辺敏夫

屋久島・宮之浦岳縦走

日時：2023年4月7日（金）

参加者：菊地、山縣、赤塚（将）、赤塚（園）

BSTV 百名山やヤマケイです〜と憧れていた「屋久島」

そこへ勢いで結成された「屋久島縦走登山ライン」!!

二週間前、日程が決定してから、あたふたと飛行機、空港P、民宿、バスタクシー、レンタカー、地元ガイド確保と手分けして奔走して頂いた仲間および先輩のアドバイスに深く感謝致します。

おかげさまで無事に何事もなく屋久島を堪能して帰ってくる事が出来ました。

4/7（金）【往路】 いわき2：00出発⇒羽田空港6：35発⇒鹿児島空港8：25着～市内観光～
鹿児島空港15：20発⇒屋久島空港16：00着⇒民宿鱗屋泊

【コースルート】 淀川登山口⇒花之江河⇒宮之浦岳⇒新高塚小屋🏠宿泊⇒縄文杉⇒太鼓岩⇒白谷雲水峡

【コースタイム】 一日目：淀川登山口～新高塚小屋🏠 11時間、距離10.9km

二日目：新高塚小屋🏠～白谷雲水峡登山口 11時間、距離12.1km

4/10（月）【復路】 屋久島空港11：45発⇒鹿児島空港12：20着⇒鹿児島空港15：40発⇒
羽田空港17：25着⇒羽田民間駐車場発18：20⇒いわき21：30着

4/7（金）民宿鱗屋さんでは名物料理トビウオの丸ごとから揚げにかぶりつき、また息子さんが釣ってきたアオリイカを熟成させた刺身等いただき屋久島料理を堪能した。

但し、少々塩辛く翌朝はノドカラカラ。

4/8（土）AM4：40 迎えに来たガイドさんと合流して登山口まで車で50分移動し6：00 出発
5人分の食材・テントを背負ったガイドさんのザックの重量に驚き（30kg以上?!）淀川登山口出発。
神々しい屋久杉の巨木の森を歩くことで、それだけでパワーをいただいている気がしてくる。
また登山ルート上には、沢山の軟水が豊富に湧き出していて、これがまた美味しい。

島内の世界自然遺産地域に入り花之江河湿地帯を抜けるといよいよ森林限界となり花崗岩の巨石が
あちこちに点在しているのが見える。トーフ岩やアモイ像、脳ミソ岩といった名がつけられている。
また、晴天で光輝く笹の海と青空がまばゆいなかに屹立している白骨樹はこの島が生み出した芸術の
ようだ。黒味岳、投石岳、安房岳、栗生岳とアップダウンを繰り返し歩くこと出発してから5時間
20分。漸く宮之浦岳頂上に到着。雨の屋久島を覚悟して乗り込んだが、天気にも恵まれず〜と快晴！
しかし4月にしては気温が上がらず、吐く息も白く頂上付近は暴風で霧氷もみられるほどの寒さ。

屋久島の厳しい自然環境を思い知らされた気がした。

屋久島最高峰宮之浦岳（1936m）から眺める景色は抜群で二番目に高い永田岳、遠くに種子島まで
全景が見えるのは、滅多にないことらしい。

下るのは残念だが今夜の宿泊する新高塚小屋までは、まだ2時間半ほどかかるので早々に下山開始。
島の北斜面に降りると一面シャクナゲのジャングルの中を歩くようである。ただ残念なのは花の時期
には、まだ少し早くガイドさんからは、「見頃の来月また来てね」とのこと?!

16：50分新高塚小屋へ到着。夕食はガイドさん特製鍋でザックの中からキャベツ丸ごと1個出現、
飛魚だしスープで鹿児島名産黒豚肉を堪能し、眠りに着いた。

4/9（日）4時半起床 朝食は昨夜の鍋をお粥にいただき、午前6時に出発。

今朝も快晴のなか、いよいよ樹齢三千年以上といわれる縄文杉とご対面である。

日帰りで縄文杉を見に来る登山者はまだ居らず、ひっそりとした空気感のなか朝日を浴びて、厳かに佇んでいる姿は威厳に満ちあふれていて、さすが屋久島の主である。

この主を早々に後にして、巨杉と合体したヒメシャラ巨木や相変わらず豊富な湧き清水と苔の森を縫いながらウィルソン株へと向かう。

さすがに午前9時過ぎると日帰り見学の登山者、修学旅行の中学生等で混み合い始め、人気スポットをうかがわせている。特にウィルソン株内のハートマークは見る方向があるそうなの？!

上がってくる登山客を過ごしながらか下り、トロッコ道に合流し単調な鉄路をひたすら1時間歩きお昼時を迎えたので、ガイドさん特製サバ節パスタ風を川原でいただくこととするが、またまたザックの中から生ちゃんぼん麺5人前が出現。少しはザックも軽くなっているのか？

食後は楠川歩道入口分岐から見晴らしの良い太鼓岩を目指す、これが結構な汗を搾り取られる急登だったが、いわき・屋久島お互いの「地元特選秘話」?!で盛り上がり、いつのまにか登り切った。

太鼓岩へ着くと雲が丁度切れてきて先客が「良いタイミングに来たね」とのこと。持ってるひと？

険峻な山並みのなか、ひときわそそり立つ太忠岳が南アルプスのオベリスクを彷彿とさせる。

島でこれだけの高度差を持ち、花崗岩からできた島全体が今なお隆起していることを思えば、

「洋上のアルプス」の異名も納得である。

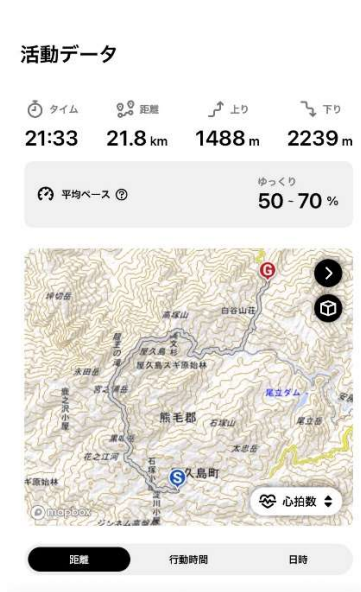
さて、コース終盤の白谷雲水峡でも苔むした森が私たちを迎えてくれ、マイナスイオンをたっぷり吸収できた。ただひとつ、残念なのは天気良すぎて苔には少し水分補給をしてあげたい位だった。

本日の白谷雲水峡への下山コースタイムは約7時間で、迎えの車の約束時間は16時予定かと思っていたが私たちが時間にとらわれず、120%屋久島堪能したいのを察して頂いたのか、各スポット

以外も詳しく説明して頂き、本当にガイド付き縦走ツアーにして良かったと思った。

当初、ガイド無しでも私たちだけで縦走することは可能とのアドバイスを受けてはいたが、お初の島で距離が長く時間も取られることから自分たちだけでは、おそらく島のスポットを十二分に楽しむことが出来なかったかもしれない。“今後、屋久島山行計画の方は時間と経済的ゆとりを持って!!”

(文責:赤塚(将))



社山（1,826m）

2023年4月16日（日）
登山教室生4名、会員23名

午前5時水石トンネルから高速道路を利用し、約3時間で目的の歌ヶ浜駐車場（日光中禅寺）に到着。中禅寺湖湖畔から、男体山を眺めながら、分岐点の阿世瀨を目指す。途中、木造作り旧英国大使館や旧イタリア大使館別荘本邸があり、この地が外人から故郷のヨーロッパ避暑地と同様になつかしく好まれていたのだらうと想像を掻き立てる。

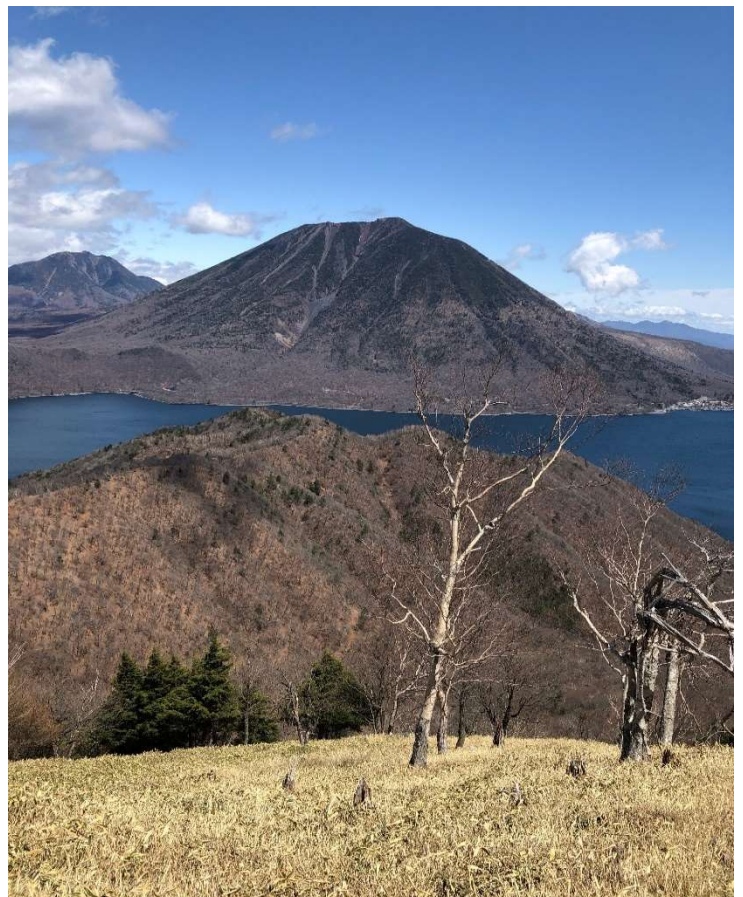
教室生は班毎、会員の方からコンパスの使用を学び阿世瀨に到着。阿世瀨峠をコンパスで合わせて、地図をみながら登山道の両側が「沢なのか？尾根なのか？」等高線と実際の斜面を見比べて進む。阿世瀨峠直前は思った以上に急登、地図通り等高線間隔は狭かった。阿世瀨峠で小休止し頂上まで距離、ピークの数を確認し山頂へ進む。登山道近くに土砂崖が3カ所あり、1カ所は地図に確認できなかった。

目の前の雄大な男前の男体山、ブルーの中禅寺湖、雪景色の山山をみながら胸を膨らませ天候に恵まれて、気持ちよい春風の社山を満喫できた。

（文責：種市）

コースタイム

歌ヶ浜駐車場（0802）→阿世瀨峠（1011）→社山（1152）→阿世瀨峠（1308）→歌ヶ浜駐車場（1505）



社山 4月登山教室

日時 2023年4月16日(日)

教室生 4名 会員 23名

歌ヶ浜駐車場を出発と同時に雨が降ってきて、あわててレインウェアの上着を着ましたが、間もなく雨は止みレインウェアを脱ぎました。徐々に太陽も出てくる気配。

英国、イタリア大使館別荘記念公園の湖畔を、社山を見据えながら足取りも軽く歩きます。

水際には腰まで水に浸った釣人が何人も見られました。雪が残る日光白根山など見えて、雪解け水は冷たいだろうと思いました。

途中秋葉さんがマーキングされた箇所を地図で確認します。その周辺の地図の特徴を教えてくださいました。

阿世瀧峠で、前泊され半月山から登って来られた安部さんと合流しました。コンパスでこれから向かう山頂は 290 度の方角と確認します。

ここからがなかなかの急登が続き、臀部～大腿部がきつく息づかきも荒くなります。

眼下には穏やかな中禅寺湖に遊覧船が浮かび、絵画のような景色でした。またアカヤシオの小さな蕾を見つけ嬉しくなりました。

社山山頂からは、向かいにどっしりとした逞しい男体山が見えていました。

山頂から下り、男体山、太郎山を目前に眺めながら格別なランチタイムとなりました。

下山後、イタリア大使館別荘記念公園でロープワークの講習です。ネットで背負ったり担架にしたりと、その強度に感心しました。

今回担当して下さった小林さん、運転して下さった方々、会員の皆様、お世話になりました。

【コースタイム】

8:20 歌ヶ浜駐車場 ⇒ 9:30 阿世瀧 ⇒ 9:50 阿世瀧峠 ⇒ 11:15 社山 ⇒
11:45~12:20 昼食 ⇒ 12:55 阿世瀧峠 ⇒ 14:00 イタリア大使館別荘記念公園
⇒15:10 歌ヶ浜駐車場



(文責 松崎)

